

講義名	財務会計特論				授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時限		前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
本講義は財務会計の個別テーマを深く掘り下げるよりも、財務会計の全体像を提供することを目的としています。まず、財務諸表の中の最も代表的な計算書である貸借対照表と損益計算書について、資産、負債、純資産、収益、費用の順で大きな枠組みを理解します。その後、財務諸表分析でよく使われるいくつかの指標について紹介し、実際企業の財務諸表を使って演習します。						
到達目標						
・財務会計の基本的な概念と全体像が理解できます。 ・基本的に財務分析の手法が理解できます。						
提出課題						
講義内容によって、課題提出を求める場合があります。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
課題については、解答を配布し、解説します。						
評価の基準						
定期試験は実施せず、提出した課題（80%）や講義での積極性（20%）などで総合的に評価します。						
履修にあたっての注意・助言他						
日商簿記検定試験3級に相当する知識を有することが望ましいです。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						
.新・現代会計入門 第6版.		伊藤邦雄		日本経済新聞出版社	4400	9784296120048
.財務会計講義 第25版.		桜井久勝		中央経済社	4180	9784502500718

教科書＞ 指定テキストはありません。講義中、資料を配布します。 参考図書 講義中、受講生の基礎知識に応じて適宜紹介します。		
授業計画		
第1回　ガイダンス・貸借対照表 予習内容：参考図書を利用して、貸借対照表と損益計算書の構造を予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。（120分） 第2回　資産の分類 予習内容：参考図書を利用して、資産の分類方法について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第3回　資産のケース 予習内容：第2回の講義内容に目を通す。（120分） 復習内容：講義中取り上げたのケース問題を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第4回　資産の評価 予習内容：参考図書を利用して、資産の評価方法について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第5回　有形固定資産 予習内容：参考図書を利用して、有形固定資産の分類、減価償却について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第6回　有形固定資産 予習内容：第4回の内容に目を通す。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第7回　無形固定資産 予習内容：参考図書を利用して、無形固定資産について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第8回　減損会計 予習内容：参考図書を利用して、減損会計について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第9回　負債の分類・社債 予習内容：参考図書を利用して、負債の分類と社債について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第10回　資産除去債務 予習内容：参考図書を利用して、資産除去債務について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第11回　資産除去債務 予習内容：第10回の講義内容に目を通す。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第12回　純資産の区分 予習内容：参考図書を利用して、純資産の区分について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第13回　損益計算書の区分・収益の認識 予習内容：参考図書を利用して、損益計算書の区分、収益の認識について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第14回　費用の認識 予習内容：参考図書を利用して、費用の認識について予習する。（120分） 復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また、課題に取り組む。（120分） 第15回　財務分析の指標		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
卒業認定・学位授与の方針(1)-1との関係：到達目標を達成することで、企業会計における科学的方法論の習得に貢献できます。 卒業認定・学位授与の方針(1)-2との関係：到達目標を達成するすることで、流通科学諸分野の財務的側面から実践的・課題解決的な能力を身に付けることができる。 卒業認定・学位授与の方針(1)-3との関係：流通科学分野の修士論文執筆あるいは課題研究における財務的視点を養うことで、当該DPに貢献できる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。 ICTの活用：Teamsを利用する可能性があります。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あります。 実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思います。		
備考		